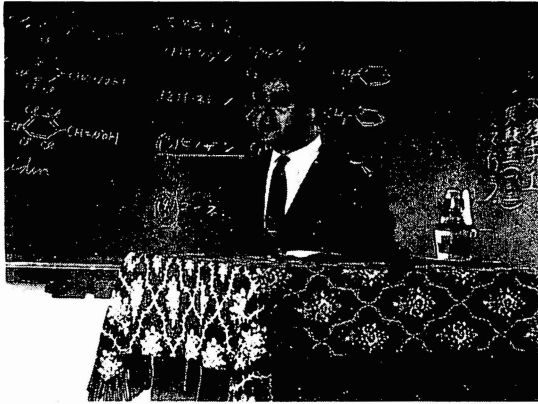


琉球大学学術リポジトリ

見里朝正博士の講演会開かる！

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/21198 |



見里朝正博士の

講演会開かる！

去った2月12日に琉大農学ビルで、理化学研究所の見里朝正博士の講演会が催されました。氏の研究の歴史がそのまま日本の農薬化学研究の歴史になっているといわれる程、農薬化学特に殺菌剤に関しては世界的な権威者である。

氏は東大を卒業後昭和21年に農業技術研究所に入り、当時防疫用として使われていたDDTを乳剤にして農薬へ利用する方法を研究し、その後BHCの分析を手がけ、それぞれ、実用化に成功した。

昭和28年頃から、抗生物質の農薬への利用についての研究を始め、それに関連して、それまで困難とされていたイモチ病の胞子を形成させる方法も実用化させ、これは現在でも「見里培地」としてドイツをはじめ欧米各地で使用されている。

昭和33年に、現在イモチ病の特効薬として広く使用されているブラストサイジンS（ブラエス）を発見したが、これは抗生物質農薬の開発のきっかけを作ったものとして、海外においても高く評価され、その後続々と抗生物質の農薬が見つけれられるようになった。

ここ数年来、農薬の人体への毒性が問題になっているが、その点からも人畜に無害である抗生物質系の農薬が多く出てくることが望まれる。

昭和41年に現在の理化学研究所に移ったが研究室のメンバーも多くなり、またこの2、3年内に数億円を投じての各施設が作られる予定なので、近い将来にはウイルスも含めての、数多くの病害に対する国産の農薬が出来る事でしょう。

(編集係)